

令和5年度 第18回 教育トーク

1. 日程

令和5年8月3日(木)

10:00～11:30 潮見中学校

13:00～14:30 精道中学校

15:00～16:30 山手中学校

2. 今年度のテーマ

「未来世代の子どもたちに期待すること」

～子どもが自らの夢に向かって取り組むために～

3. 参加者(人)

	学校関係	PTA・コムスク・ 愛護委員・自治 会等	教育長・教育委 員・事務局	合計
潮見中学校	9	17	22	48
精道中学校	10	27	21	58
山手中学校	13	30	21	64

4. 主なご意見(各グループからの意見)

【潮見中学校区】

○1グループ

好きなことに思いっきりチャレンジしたり、自分の夢をしっかり持ったりできる子どもになってほしい。折れない心を持てる子どもになってほしい。

しかし、本当はもっと子どもたちは様々なことに挑戦したいと思っているにも関わらず、子どもを取り巻く環境が制限されてしまうことが多い。やはり子どもたちが自分たちで考えて行動できる場を作る必要がある。(公園などのボールも禁止等)

そのためにも子どもたちがもっと自由に自ら考え行動できる市や地域にしていきたい。何よりも子どもの元気が地域の元気につながっていく。

○2グループ

子どもたちが自らのことを判断して行動できるようになってほしい。

高校生は1年生の夏休み後にはすぐ進路を決定しないといけない状況の中で親としても



それに対してどうしたらいいのかわからないことがある。そのため、小さい頃から将来を意識した教育（中学校ではトライやる・ウィークなどの体験）を通して子どもたちの視野を広げるような教育をしていきたい。

○3 グループ

心と体が健康でたくましく、また自分で考えて行動できる子どもになってほしい。

そのためには地域社会とのつながりが必要であり、いろいろな人の見守り・手伝いがあることでつながりが持てる。また、学校の中では先生と子どもが安心して過ごせるようにする必要がある。子どもが安心して学校に通うためには先生を頼っていいと思えるようにしていく必要がある。また地域の人に支えられている安心感を子どもたちに届けられるようにしたい。

○4 グループ

外でどんどん遊んでほしい。現在は、友達同士との関係づくりが薄くなっていると感じて



いる。大人・地域・教師がどのように子どもを応援するかが重要である。大人は子どもを責めないことが大切であり、そういう大人の行動が子どもたちに良い影響を与える。またそれが自己肯定感や自己有用感につながっていく。やはり子どもたちのお手本となる大人が余裕を持って行動できるようにしていかなければいけない。

○まとめ

【森川委員より】

- ・子どもの心と体が健康であるためには、大人自身や社会が健康でなければいけない。
- ・現状先生が忙しすぎるため、やはり子どもたちのことを考えると先生が健康でなければいけない。
- ・近年公園でボール遊びができない状況にある。住民の方にも様々な意見があるため、やはり対話を重ねて、子ども真ん中社会で、みんなで納得してよいものにしていくことが必要である。
- ・何よりも社会全体で子どもたちを支えることが重要である。

【極楽地委員より】

- ・みんなのポジティブな言葉が飛び交う関係・環境づくりが必要がある。
- ・子どもたちの未来のために様々な立場で現在も取り組んでいるが、大人の笑顔が子どもの笑顔につながる。
- ・みんなが明日からまたがんばろうというパワーになればよいと思う。

【精道中学校区】

○1 グループ

あいさつしているようではあるが決まった人とし
かしない。相手がしないとししない。コロナ禍における
心境の変化があるのでは。もっと積極的に行動でき
るようになったら。

安心して過ごしていけるようになってほしい。子ど
もの内側の部分を見ていくために環境や子どもの見

取り方が重要である。安易に否定するのではなく、受け止めていく必要がある。非日常的体
験を通して普段と違った子どもたちの姿が見られる場所(地域含めて)を作っていくことが
重要である。

○2 グループ

幼児教育の素晴らしさを感じている。現在芦屋の幼稚園は人数が少ないが、だからこその
教育をこれからも引き続き行ってほしい。

不登校生が多い実情があるがそのことが良いとか悪いではなく、一人ひとりの子どもに
応じた接し方ができるはずである。そのためいろんな子どもに応じた学びの場を準備して
いく必要がある。

芦屋の給食は素晴らしい。体を作っていく上で食は重要であるためそういった食育を
調理実習を含めて引き続き行ってほしい。

夢がある子どもになってほしい。ただ夢を持つのは難しいことである。そのため小学校段
階から自分の将来を考えてもらえる機会があればよいと思う。

○3 グループ



子どもたちには予測不能な世の中を生き抜く力が
重要であるとともに、様々な課題に対して解決する
力も必要である。ただ、大人に余裕がなくすべてを子
どもに前もって与えてしまうため考えていくべきで
ある。

教育・家庭・地域が連携することが大切であり、ル
ールの中で子どもたちが自分らしい姿を出せるよう
な環境を大人が作っていく必要がある。

○4 グループ

子どもたちには社会の変化に対応できるようになってほしい。そのために様々な経験を
してほしい。

また、子どもたちの自己肯定感を高めるには、子どもたちが周りの大人の中にロールモデ
ルを見つけることも必要である。また周りの大人が子どもたちを認めることが重要である。

○5 グループ



地域の方が見守りをしてあげていることが当たり前と思っている子どもが多い現状がある。

子どもたちが成長する中で大人が本当にやらないといけないのかを考える必要がある。これからの時代は人間力である。大人がすべてセッティングしてしまっていることがあるので、子どもたちが挑戦できる環境を作ることが重要である。

○まとめ

【河盛委員より】

まずはやはりご家庭で子どもたちのそれぞれの個性を尊重しながら、みんなで守っていくことが大切であり、さらには地域や学校も同じようにじっくり見守っていくことが大切である。

【上月委員より】

自分の夢を持ち、自分の人生を生き抜く力やこんな風に生きていきたい、一生懸命やり遂げたいと思える子どもに育ってほしい。

それぞれが好きなことに没頭して、失敗したとしてもやり抜く子どもになってほしいし、子どもたちがそういうことのできる学校・地域・家庭であってほしい。

解のないところに挑戦する子どもになってほしい。そのためにも子どもたちが様々な選択ができるような環境を作っていくべきであり、その中でより良い考えを持てる、自分が主役になるようにさせていきたい。

【山手中学校区】

○1 グループ

互いが認め合えることやコミュニケーションは社会で必要である。今の子どもたちにとってやりたいことを見つけることが難しいため、いろんなことに触れ合える機会が必要である。

周りの大人がすべてのことを昔より用意周到にしているため、子どもは幼くなっている。これまでと同じようにするだけでなく、画一的な教育からの脱却が必要と感じる。



○2 グループ

子どもたちには自分のことが好きでいてくれて、何事にもチャレンジして打ち込んでほしいし、芦屋を好きでいてほしいと願っている。また、自らルールなどの枠組みを変えていけるということを知ってもらいたい。

いろんな大人が関わるのが重要であり、子ども同士の関わりの中でいろんな問題が起きてきた時もそのような経験があることで乗り越えられる力になる。それを周りの大人が

口出しするのではなく、見守ることも必要である。また、子ども扱いするのではなく、大人がしっかり人として認めてあげて、しっかり子どもに歩み寄っていくことも大切である。

○3 グループ

今、昔当たり前だったことが変わっていきっており、不安が増えている現状がある。子どもたちもスマートフォンやタブレットなどのデジタル社会で育ってきている。だからこそコミュニケーション能力や失敗を恐れない、やり遂げる力や自分の意見をしっかり言える力が必要である。

家庭で親が褒めても子どもに響かない。学校で先生が褒めてくれたことが心に残っている。

○4 グループ

今回のテーマを見つめ直す必要がある。大人が寄り添って進めねばいけないが「期待すること」という文言が上から引っ張るといった観点でありよくないと思う。

勉強が大切だけどそれが全てではなく、やはり心の成長が必要であるが、現状子どもたちは親が喜ぶ習い事を選択しているように感じる。

最近自信をなくす子どもが多いが、何を大切にしていけるのか考える必要がある。幼稚園ではいろんな経験・関係性を大切に、ときめききらめき夢中になることを大切にしており、これが小学校や中学校につながればよいと思う。

困っている子に対する関わりを知り、自分が良ければという考えではなく、お互いいいことを考えていく子どもであってほしいし、そういったところをしっかりと地域・家庭・学校で育めるようにすることが大切である。



○5 グループ

子どもが可能性を楽しむことが大切であり、何をするにもその過程が大事である。そうすることで将来が楽しめると思う。また、新しい技術をものにしていく力も必要であり、それをサポートしていく必要がある。

体験活動ができる環境をもっと大切にしていくことや英語教育の充実もこれからは必要である。

○6 グループ

子どもたちにとって大人がモデルとなる必要がある。例えばスマホのトラブルの対応方法など正しく恐れることが正しい使い方につながる。

人との関わりが重要である。最近は公園で遊ばない子が増えている。本当は遊んでほしいところであり、それぞれ家庭等事情があるが、子どもたちの意思を尊重してほしい。

不登校の子どもの未来に対して目を向けてほしい。

それぞれの立場で芦屋の子どもを見ていく必要がある。子どもたちそれぞれ違うのは当然であり、正解がないことに対して大人同士もイメージを共有する作業が必要であり、対話を通して問いを見つめ直すことが重要である。

○まとめ

【教育長より】

それぞれの班で様々な話題が取り上げられており、今の子どもたちの様々な環境でのつながりについて考えていただいていた。

今はいろんな部分で昔とは大きく違うが、今も昔も認められる褒められることが大切であることは変わっていない。そのため大人がしっかり見守っていく必要があり、そんな環境で子どもが失敗体験を経験しながら、成功体験を得られることが重要である。そういった芦屋の教育の素晴らしさをこれからも推進していきたいと考えている。